

令和6年度 一般選抜入学試験（後期）

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで4ページあります。解答用紙は3枚です。
下書き用紙は1枚あります。
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があつたら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってはいけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これだけストレスの多い現代社会だからでしょうか、最近、精神科クリニックなどで「**適応障害**」と診断される患者が増えていると聞きます。適応障害というのは、職場や家庭などでの新たな役割や環境変化に伴うストレスから、不安になったり自分を責めたりして機能不全の状態になる病気です。

本人は適応できないこと自体が問題と思っていることが多いのですが、実は問題はそうではなく、**適応できないことで不安になり悩んでしまうこと**であり、そんな自分が受け入れられないことなのです。適応しなくてもいいじゃないかと思えば、もつと気持ちが楽になるのでしょうか、そう簡単にはいかないようです。

社会では多様性が叫ばれていますが、その一方で**同調圧力が高まっています**。むしろ、バラバラだからこそ不安になり、みんなが同じと感じたいのかもしれませんが。その結果、みんなが**忖度し合**って期待される行動をとることが求められる。その傾向が強まれば強まるほど、**適応障害と診断される人が増えるのは当然**と言えます。もともと発達障害の傾向があり、言外の意味を汲みとることが苦手な人も職場でうまく行かず、**適応障害と診断されて休職を勧められる**ことがよくあります。発達障害でなくても、相手の言うことをそのまま言葉どおりに信じられる社会であれば、どんなに楽に生きられることでしょうか。

現代社会はどんどん複雑になって、生きにくさが増しているようです。そこに新型コロナウイルスが入り込んできたわけです。

(中略) 見えない敵であるウイルスへの不安や恐れを、特定の見える対象や人に置き換えて、嫌悪したり、偏見・差別したりして自分から切り離し、遠ざけることでつかの間の安心感を得る。これは置き換えと呼ばれる無意識の**①ボウエイ**機制の一つです。いったんはそれで安心できたとしても、かえって人と人との信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。そして感染予防のルールを守らない人たちや感染を隠したりする人が出てくることで、ウイルスが入り込む隙ができてしまうのです。

(中略) 「不安と恐れ」に対する予防策として、「**気づく力**」「**聴く力**」「**自分を支える力**」を高めるということが掲げられています。具体的には、ウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いていないか、何かと感染症に結びつけて考えていないか、趣味の時間や親しい人との交流が減っていないか、生活習慣が乱れていないかを振り返ってみること。さらに、立ち止まって一息入れ(深呼吸、お茶を飲む)、今の状況を整理してみること。自分自身(考え方、気持ち、ふるまいなど)をいろいろな角度から観察してみること、などです。

これは、リフレクション(内省)という方法です。日本では、**なにかという反省**させられますが、リフレクションは反省することではなく、まさに自分自身や出来事をいろい

るな角度から振り返ってみることなのです。うつや不安障害などの治療に用いられる認知行動療法でも、これを行います。

(中略) 困難な子ども時代を過ごした人の中には、身体的にも②レジリエンス的にも健康に育つ人がいるのも事実です。そこで注目されているのが、レジリエンス*です。特に当事者のリカバリーを支援する運動の中で注目されるようになった概念で、あらゆる逆境やストレスにもかかわらず、それをしなやかにねのけて回復していく力、立ち直る力のことを言います。

レジリエンスについては、90年代以降数多くの研究が行われているのですが、私がなるほどと思ったのは、10代前半でハイヴアレー病院という精神科病院の子どもセンターの閉鎖病棟に入院させられた子どもたちに関するハウザー*らの研究でした。

彼らは、1978年から1983年にかけてこの病棟に入院した約70人の子どもたちに同じインタビューが年に1回インタビューを行い、その成長過程を追う研究を行いました。子どもたちは入院前も入院中も、厳しい逆境体験を重ねており、怒りをコントロールできずに破壊的な行動を繰り返していたり、うつで自殺③キトを繰り返していたりしていました。退院した子どもたちも、たいていは身体的・精神的な疾患や問題を抱えていました。

ところが、その中に珍しく「成功した」子どもたちがいたのです。ドラッグを使用することをやめ、健康的になり、学校を修了し、仕事についたりその準備をしたりしていました。結婚して子どもがいる人もいました。もちろんそのプロセスは平たんなものではまったくありませんでした。でも、彼らは失敗を繰り返す中で、より強く、より賢明になっていたのです。この子どもたちは、心理検査などによってもレジリエンスが高いと判断されました。

1989年、「成功した」子ども、すなわちレジリエンスが高い子ども9人を対象に、追跡調査が行われました。今回は彼らの過去を知らないインタビューが、この9人に2回ずつインタビューを行ったのです。20代の青年になった子どもたちは、自分についてこれまでの経験や思いを自由に語りました。それと並行して、対照群として同じ入院児の中から選ばれた平均的な子ども(こちらもすでに成人しています)にもインタビューを行い、語られた内容を比較してその違いを見ました。データは数値ではなく、子どもたちの語り(ナラティブ)で示されています。

分析の結果、レジリエンスが高い子どもたちの語りには、対照群の平均的な子どもたちとは明らかに違う特徴が見られました。それは、彼らの語りに現れる〈内省〉〈主体性〉〈関係性〉の3つのテーマで示されました。この3つは独立した特徴ではなく、それぞれ関連し合っています。

たとえば、ピートという少年は、銃を盗み、6つの学校を追い出されたところで入院させられたのですが、それについて問われて、「嫌だっただけさ」「やっつけられなかったのだ」と答えます。さて、このどこがリジリエントなのでしょう。

〈内省〉とは、自分の思考のプロセスを考える能力です。そして、自らの心の中を探索して、自分の考えや感情、動機を知ろうとし、さらにそれを意識化していく力です。ピートは、嫌だという気持ちを自分がコントロールできなかったことに気づいていて、それを思春期の少年らしいぶっきらぼうな言葉で、彼なりに表現しています。

〈主体性〉とは、行動することが肝心であり、自分の人生に良い結果を生むようにかかわることができるという信念です。リジリエントな子どもたちは、ときに向こうみずな行動に出ますが、それには彼らなりの目的があるのです。人のせいにしていないということも大事です。ピートは入院前、祖父から盗んだ銃で父親を脅すという事件を起こしていました。実は、④ギヤクタイする父親を止めようとしたのです。彼の暴力は、安全でいたいことの裏返しなのだと言います。やり方は良くなかったかもしれませんが、彼は自分で責任をもって立ち向かおうとしたのです。そこに被害者意識はありません。彼は「人生をしくじった」と言います。そして、自分にとっては良いと思えた行動を「しくじり」ととらえなおし、一度としくじらないようにどうすればいいかを考えていたのです。

インタビューが終わりに近づくと、ピートは⑤ラクタンして、「もう来年まで会えないの？」とインタビュアーに聞きました。二人は再会を約束して別れます。彼には関係を志向する傾向があり、実際に安全な関係をつくりだす力があつたのです。これこそが、素直に甘える能力と言えるでしょう。親に対するアンビバレントな気持ちも、関係を求めるからこそ生じるものです。

ときに途方もないと思えるような夢を抱き、自分なら実現できるだろうと信じて果敢に取り組んでいく根拠なき楽観主義も、リジリエンスの高い子どもの特徴の一つでした。

その後、ピートは大学を卒業し、父親の限界を知りつつも、比較的あたたかい関係をつくりあげたと書かれています。きつと甘えられるようになったのでしょう。

(武井麻子著『思いやる心は傷つきやすい パンデミックの中の感情労働』創元社より。ただし、内容を一部省略している。)

*本文中で使用されている「リジリエンス」は「レジリエンス」ともいう。

*ハウザー ハウザー・スチュアート・T. ハーヴァード大学医学部精神医学科教授であつた人物。

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 二重傍線部について、同調圧力が高まるのはなぜですか、本文の記述内容を踏まえて、体験、もしくは見聞きした同調圧力の例を示しながら、二五〇字以内で説明しなさい。

問三 本文中に書かれている「リフレクション」とはどのようなことですか。自分の体験に基づいた具体例を示しながら、三〇〇字以内で説明しなさい。

問四 「レジリエンス」を必要とする状況に対し、どのように対応すればよいとあなたは考えますか。本文中の記述内容に即し、あなたのこれまでの体験や身近な例を一つあげ、四〇〇字以内で述べなさい。